

High risk of postnatal depression and relevant factors of Chinese mothers in Japan

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2020-11-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00060010

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



博士論文審査結果報告書

学籍番号 1529022040

氏 名 李 剣

論文審査員

主 査(教授) 塚崎 恵子 

副 査(教授) 津田 朗子 

副 査(教授) 表 志津子 

論文題名

High risk of postnatal depression and relevant factors of Chinese mothers in Japan
(在日中国人母親の産後うつ傾向の実態および関連要因)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

日本人女性の産後うつ (postnatal depression 以下 PND) の有病率は知られているが、日本に在住している外国人女性の PND の実態と関連要因は明らかではない。本研究の目的は、日本に在住している外国人女性の中で、出産総数が最も多い中国人の母親における PND の傾向とその関連要因を明らかにすることである。

対象は過去 3~4 か月に出産した日本在住の中国人の母親であり、対象者の募集は全国 47 都道府県 1718 の自治体の母子保健担当課に研究協力を依頼し、同意の得られた各自治体に必要部数を送付し、3, 4 ヶ月乳児健診時に該当者への調査用紙の配布を依頼した。78 自治体から 382 部の配布協力があり、留め置きによる自記式質問票調査を実施した。調査項目は母親と児の状況、サポート状況、エジンバラ産後うつ病スケール (EPDS) などである。本研究は金沢大学医学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

調査票の回収は 84 名であり、そのうち 80 名を分析対象とした。在日中国人母親の PND リスクが高い者の割合は 29 名 (36.3%) であった。PND に影響する要因は、孤独感と夫の支援であり、孤独感がある者は PND リスクが高く (オッズ比 7.416 $p=0.003$)、夫からの支援のある者は PND リスクが低かった (オッズ比 0.357, $p=0.047$)。在日中国人母親のうち PND リスクが高い者の割合は、日本人女性の割合と比べると高かった。夫からのサポートは生活、家事育児面だけではなく、母親の心の支え、子育ての孤独感の軽減にも繋がる。出産後 3-4 か月の中国人母親に対して精神的サポートを強化する必要があると示唆が得られた。

【審査結果の要旨】

本研究は日本で初めての在日中国人母親を対象とした産後うつに関する全国調査であり、その実態を詳細に把握することができた。また EPDS の総得点だけではなく、各項目についても確認する意味を報告し、今後も増加する外国人母親への産前産後の支援に役立つ研究である。

公開審査では、対象者の選定方法、回収率を上げるための対応、調査票について、結果についての考え方、研究成果の還元などに関して質疑され、適切な応答がなされた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士 (保健学) の学位を授与するに値すると評価する。